

タイトル (MS 明朝 12 ポイント太字、中央揃え)
英文タイトル (Century 12 ポイント太字、中央揃え)

総合 太郎 (氏名 : MS 明朝 10.5p、太字、右詰)

SOGO, Taro (氏名英語表記 : Century 10.5p、太字、右詰)

(2行空ける)

1. 本文の始まり

見出しタイトルは太字 (10.5p)。

本文開始 (和文は MS 明朝 10.5p、英数字は半角文字 Century 10.5 p)

段落開始時は空白 1 文字ではなく、インデントで 1 文字分下げる。

句読点は「、」「。」を使用

1) サブタイトルも太字

各節等のナンバリング含め、数字は全て半角数字 (Century10.5 p) 使用。

2. 本文中挿入図表、特殊文字など

大見出しの前は 1 行空白行

1) 図表

複雑な図表は本文中挿入とは別に、1 枚ずつ別添えする。別添えの図の形式は jpg や png などであることが望ましい。(ただし、表は製版側フォーマットにての変更もありうる。掲載時の著者チェックにて確認する)

2) 特殊文字

査読後の最終原稿提出時の注意 : (査読時には特に明示する必要はない)

イタリック、本文内の太字指定、○囲み数字、ふりがな、傍点、ギリシャ文字、ドイツ語、フランス語の文字、中国語の簡体字、特殊カッコなど (例 : ①、自然^{ナチュラル}さ、学際^{インター}知、[底層]) は、黄色などのハイライトマークをつけてわかりやすく。

傍点は、横書き文章では「^レ傍点」より「^ル圏点」が望ましい。

ふりがなは本来の読みではない自然^{ナチュラル}さなどは‘自然さ’ (ナチュラルさ) と括弧で示す方が望ましいが、編集では著者の意向を重視する。

本文中での行替え時に、行間を 1 行空けたい場合は、行間に‘アケル’と明示する。

3. 注および参考文献

注：(前に空白1行)

(1) 注は word の脚注機能ではなく、文中では「フォント」の「上付き」機能⁽¹⁾⁽²⁾で示し、文末に(1)、(2)として記す。

参考文献 (前に空白1行、MS 明朝：アイウエオ順、Century：A,B,C 順、10.5p)

小林直樹 (2006) 「総合人間学の課題と方法」『総合人間学の試み—新しい人間学に向けて』小林直樹編、学文社、pp.11-13

マクルーハン, H.M. (1986) 『グーテンベルクの銀河系—活字人間の形成』森常治訳、みすず書房

McLuhan, H.M. (1962) *The Gutenberg Galaxy: the Making of Typographic Man*,
Routledge & Kegan Paul

Shizukawa, Y. and Kono, K. (1992) “Concentration and Relaxation.” *Natural Science*,
34(3): 168-173

同一著者の場合：

総合太郎 (2006) 『総合人間学の課題と方法』

----- (2020) 『総合人間学の現在』

[そうごう たろう／総合人間大学／哲学]